

環境モデル都市評価アドバイザーグループからの主な意見

(平成 23 年 7 月 4 日開催)

- 各自治体提出の報告書等から、各自治体が創意工夫を凝らし、真摯に取り組んでいる姿勢が伺え、高く評価できる。
- 中でも、廃食油の回収・リサイクル等の市民参加型の取組については、各自治体それぞれに実施方法等を工夫しながら、取組を強化しており、特に高く評価できる。
- 取組成果については、実施件数等の数値だけの報告に留まらず、例えば、飯田市におけるLED防犯灯の事例のように、地域の企業が共同して取り組むことで、製品化に成功し、地域に大きな成果をもたらしたケースもあり、このような成果（アウトカム）も含めて情報発信に努めていただきたい。また、「産業」を切り口とした取組成果の整理についても検討していただきたい。
- 各自治体において様々な取組を進めているが、成功例に加え、取組が計画どおりに実施できなかったことについての課題や障壁を学び、共有できる場の創設を検討していただきたい。
- 取組の進捗状況や温室効果ガス排出量を定量的に評価することは、素晴らしい取組であるが、今後、取組の実施による市民や企業の環境意識の高揚等の成果（アウトカム）も含めた多角的な分析となるよう工夫していただきたい。